

海外ビジネスのヒントを

「ミャンマー支援機構」深山さんが本発刊



出版した本を手にする深山さん

ミャンマーを中心に約300社の海外進出にかかわってきた「日本ミャンマー支援機構株式会社」(横浜市金沢区)の日本人アドバイザー、深山沙衣子さん(36)が「ミャンマーに学ぶ海外ビジネス40のルール 善人過ぎず、したたかに、そして誠実にを発刊した。異文化地域で展開するビジネスのヒントを易しく指南する。

深山さんは2012年に機構を設立。企業の海外支援をする中で、社会主義と軍事政権を経験したミャンマー人の思考や行動を理解できない日本人が多いことを実感した。

たとえば、ミャンマーには「見積もり」正式契約」という文化がある。日本では、複数の業者から見積もりを出させる「相見積もり」が常識だが、ミャンマーでは「やる気がない」と判断される。

また、両親、教師、僧侶以外の人が人前では「軽く注意しただけで仕事を辞めてしまう。特に転職先が見つかりやすい優秀な人に、その傾向が強いという。

深山さんは、経験したこれらの生活実態を挙げながら「海外ビジネスで失敗しないため

キアシドクガ大乱舞

相模原市中央区高根にある同市立博物館に隣接する樹林地で、キアシドクガが大発生していたのを、同博物館の秋山幸也学芸員が確認した。「無数にいて、朝から夕方近くまで恐らく万単位で大乱舞し、夢幻の世界を見ているようだった」と話している。

秋山さんによると、キアシドクガは体長約3センチ。前翅、後翅とも純白で、オレンジ色の前脚が特徴。幼虫はえさとして主にミズキの葉を食べる。名前にドクガと付けられているが、ドクガの仲間というだけで、幼虫にも成虫にも毒はないという。

この樹林地は終戦直後に連合軍が接収し、その後米国から日本に返還された。雑木林のように見えるが、長年放置されてきたことから鳥のふんに混じったミズキのタネが生え、ミズキが主体の森にな

相模原「万単位」夢幻の世界



相模原市立博物館隣の樹林の葉にとまるキアシドクガ
―同博物館提供

った。このため、キアシドクガが増えたとみられる。

1年のうちこの時期だけに発生し、ひとたび発生すると5年ほど続くとされている。同博物館周辺では4年ほど前から大発生が続いており、今年はいままで最大規模という。

【高橋和夫】

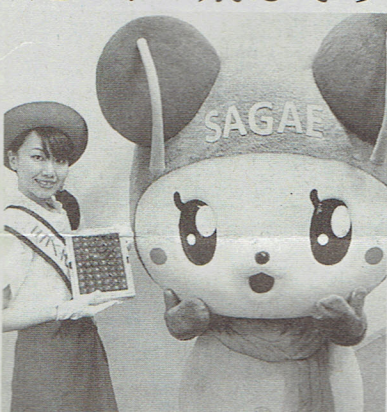
に理解すべきこと」を書きつづけた。特に「情報や支援が少ない中小企業のミャンマー進出に役立ててほしい」と話す。

「外国人にどう活躍してもらうかが、日本の少子高齢化や人口減少対策の鍵」と指摘。「日本の多文化共生を推進する助けになる本を書きたかった」と、もう一つの執筆の意図

を語る。
1722ページ、1400円(税別)。問い合わせは合同フォレスト(03・3291・5200)。

【松永東久】

種 遠くへ飛ばそう



プレゼント
からTOHOシネマズシヤンテほか全国公開。監督・脚本ニビリー・レイ、出演キウエテル・イジョフォ、ジュリア・ロバー

18時半、一ツ橋ホール

映画

かながわ

ナビ

※掲載希望の方は、1ヵ月前までに資料を送ってください。資料は返却しません。掲載記事・写真は本社電子媒体にも収録します。掲載可否の問い合わせはご遠慮ください。

〒100-8051(住所不要)毎日新聞地方部
遊ナビ係 ファクス 03・3212・0483
メール u-navi@mainichi.co.jp

